



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

令和2年7月

うるわし通信

～新型コロナ・パンデミックの中で迎える～ うるわしの桜井をつくる会 10周年

会員の皆様、ご無事でお過ごしのことと存じます。

今年は予想もしなかった感染症ですべての風景が一変し、世界中が非常事態に直面しました。日本ではようやく第一波が過ぎ、徐々に平常の生活が戻りつつありますが、第2波のおそれもあり、まだ油断できない状況です。

来年にはワクチンも開発され、正常化が期待されますが、コロナ後の世界はおそらく、これまでにない新しい時代の幕明けとなるでしょう。

重要なキーワードを二つ挙げたいと思います。

まず、いずれ来ると思われていた第4次産業革命、ソサエティー5.0、本格的なデジタル社会の急速な到来です。

働き方、職業、教育、行政、都市構造などすべてが革命的に変化するでしょう。しかし桜井市にとってはこのピンチはチャンスです。

今後、実現するであろうデジタル田園都市として桜井市はきわめて有利な条件・環境にあります。

今一つ、グローバル化による格差拡大や分断、自分本位主義、孤立主義のひずみが表面化し、国際的にも、国内の社会もばらばらになって不安定化し、民主主義や資本主義の根柢が揺らぐ危機です。ここでこそ人類の叡智が求められる時で、自利と利他を共生させる日本的な生き方を世界に普及させるべきだと思います。

さて、その中で、うるわしの桜井をつくる会は、今年設立10周年を迎えました。

これもひとえに、会員の皆様をはじめ、役員や事務局各位の終始たゆまぬご尽力のおかげと、心より厚く感謝申し上げます。

10年の歩みを記録した記念誌や記念講演や総会なども企画しておりましたが、新型コロナの対応の為、延期のやむなきに至っています。また10年を機に新体制による運営も検討しておりますが、情勢を見極め適切な時期に、あらためて各位にお諮りし、実施していきたいと考えております。

どうか引き続き、住みたいまち、住んで良し桜井!のためご支援、ご協力下さいますようお願いいたします。



うるわしの桜井をつくる会会長 堀井良殷

うるわしの桜井をつくる会会長 堀井良殷

第1回食の安全・安心セミナーを開催

「食の安全・安心を取巻く状況を見直す」をテーマに、去る5月29日(金)エルト桜井の交流室で開催しました。当初は4月17日開催予定でしたが、新型コロナウイルスの関係で緊急事態宣言解除を待っての開催となりました。

講師に、コープ自然派奈良の奥瀬さんと、大竹さんを招き、①農産物の残留農薬問題や②加工食品～食品添加物～を切り口にして、食をめぐる現状の紹介と③どのような安全・安心への取組みを進めるかについて、問題提起とコープ自然派の活動紹介を受けました。



大竹さん左 奥瀬さん右

～貿易自由化の下で拡大する農産物の輸入～

先ず、食の自給率が2018年度に37%(カロリーベース)になって、過去最低に並ぶとの説明があり、日本の食生活の約6割が海外からの輸入に頼っていることで、国は自給率を2020年度に50%の目標を設定している。食糧自給は国の安全保障の問題であるとの視点から、自国農業への様々な支援策をおこなっている国が多いが、わが国では、長期的には低下傾向で推移してきた状況を各種データや資料で、紹介された。

～残留農薬や遺伝子組み換え食品に関心を持って～

また、外国(特に欧米)では有機農業への関心が高まってきており、その背景には農薬の人体や環境への悪影響を知って、それを避けようとする生活が広がってきている。農薬自体もこの間、有機塩素系(DDTなど)⇒有機リン系(マラトンなど)⇒ネオニコチノイド系と変わってきているが、2013年頃から諸外国で、ネオニコチノイド系農薬の全面使用禁止や使用制限が進められてきている。しかし、一方わが国ではこの農薬の残留基準緩和が大幅に進められているという状況であると説明があった。(これらについては、この間「うるわし通信」で数度紹介してきた内容)

さらに、食品添加物中には、石油製品や輸入された遺伝子組換えの農産物を原材料にしているものもあり、発がん性の指摘もあるので、十分な注意が必要と話された。

～では、どうすればよいのか～

1.身近なところからは、食品を購入するときには、原材料名の表示項目をしっかりと見る。分量の多い順番に記載されており、後半に添加物等の記載がある。但し、複合の添加物は個別に記載されていない面も注意が必要。⇒個々の添加物は検査が行われていても、いろいろな添加物を同時に摂ることについては、動物実験もされていない。

2.子ども達の食べるものについては、特に注意をして食品選びをおこなうことと、保護者等への啓発活動の重要性。⇒食品添加物や残留農薬についての継続的な注意喚起。

3.現在の農業政策への関心を持つことの大切さ⇒「種子法」や「種苗法」の改正問題と生活への影響等を提起頂きました。参加者からは、生産者(農家)の声を聞く場を設けることの大切さや、今の子育て世代が収入に占める食糧費を軽減するために添加物の多い食品を購入せざるを得ない現状があるのではないかといった提起もありました。また、学校等での給食についても取組みが必要との指摘もありました。

次回開催については、「地域の具体的な取組みを知る」をテーマに改めて連絡させていただきます。

(楠木 克弘)



参加者全員がマスクを着けての受講

森本六爾の桜井時代

大正末から昭和の初めのわずか14年の研究生活の間に、桜井市が生んだ非凡の考古学者森本六爾が熱中したテーマは、弥生文化の研究、古墳文化の研究、奈良時代墳墓の研究であり、それらの研究業績は80余年すぎた今も燦然と輝いている。

三輪山の麓近く、桜井市大泉の道路脇に、植栽に囲まれた一つの石碑がある。昭和56年（1981年）に建てられたその石碑には、表面に樋口清之揮毫で「森本六爾 夫妻顕彰之碑」の題字、背面に夫妻の功績を記した撰書が刻まれている。

六爾と畝傍中学校の同窓だった堀井甚一郎(奈良教育大学名誉教授)による撰書では、六爾が明治36年（1903年）に同地で生まれたこと、独学で考古学の研究に没頭し、若年にして『日本原始農業』を著して天下に説を問うたことなどを記している。六爾と堀井は畝傍中学校までの往復12キロの道を5年間歩き続けた。若々しい二人の談論風発は、その人間形成に大きな役割を果たした。

六爾は短歌に熱中し始め、万葉集の研究では先生を打ち負かすほどであり、多くの短歌を残している。その内容には、自然と生命に対する深い心と鋭い表現力がみられる。さらに文豪志賀直哉・詩人荻原朔太郎・歌人斎藤茂吉の作品などに接し愛読していたことがわかる。薬師寺研究の論文を書き、和辻哲郎の『古寺巡礼』を精読している。

やがて、高学年になると考古学に熱中し唐古池付近を徘徊し、土器の破片を採集している。六爾は畝傍中学卒業後、向学の夢を持って考古学を研究するには最適な国学院大学受験に合格する。父親に内緒で受験したことや、農家の九人兄弟の長男である六爾は跡目相続をするのが当然であるということで父親どころか母親までに猛反対され東京遊学を断念する。そのとき親友の堀井甚一郎は東京高等師範学校に入学しており二人の人生行路は、大きな岐路を迎えることになった。生涯付きまとう不運と逆境の第一歩は、この進学の挫折から始まる。この苦境にめげずに、その後三輪小学校、香具山小学校、都祁小学校の代用教員となり考古学の探求に力を傾ける。

六爾は短い生涯の中で、多くの単行本と論文を残しているが、最初の論文は生家の隣村である大西と江包に伝わる「お綱祭り」の神事についての論文である。国の重要無形民俗文化財である「お綱祭り」は毎年2月11日に承継されており桜井市の有力な観光行事である。この間も遺跡の実地調査と論文の執筆を続け、ついに唐古遺跡から採集した土器破片の底に、押圧された靨跡を発見した。これは大発見であり、弥生時代はいまだに農耕社会に発展していないという当時の学説を根本からくつがえすものであった。この後も六爾は彼自身も知る由もない短い逆転・不運の人生を精進することになる。その詳細は、今後で紹介させて頂きたい。

(船谷 晴夫) <参考 芝房次著 『森本六爾論』 >



森本六爾 夫妻顕彰之碑

記紀万葉プロジェクト集大成シンボルイベントへの参加

奈良県は平成24年（2012）に「記紀万葉プロジェクト」を立ち上げ、今年是最終年度を迎えます。これを機に「奈良県主催 記紀万葉プロジェクト集大成イベント」の募集があり、桜井記紀万葉プロジェクト推進協議会も応募し、採択されました。

イベントは県が選定した外部業者が請け負う形で進められています。実施に当たっては当初屋外のメインステージを予定していましたが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から屋内会場に変更となりました。

現時点で、実施日は令和2年11月29日（日）とし、桜井市民会館でのメインイベントや古代を辿るウォーク（事前申込制）、大神神社 大礼記念館での万葉歌碑原書パネル展等多くのイベントが予定されています。さらに終了後も楽しめる連動イベントも考えられています。桜井記紀万葉プロジェクト推進協議会の松井会長から『世界遺産登録を申請している隣接地の天理市、橿原市、明日香村等の自治体』にも参加を呼び掛けてほしい』との要請もありました。

今後、奈良県と打ち合わせをしながら詳細内容が決まり次第報告をさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。（高瀬）

イベント概要 11月29日（日）

9:00～11:00

古代を辿るウォーク

- 三輪をゴールにした複数のウォークルート
- 庁中漫録等文献を活用した解説板設置
- デジタルスタンプラリー
- 万葉歌碑原書パネル展示(大神神社大礼記念館) ～17:30

12:00～

三輪周辺街中
ランチ

13:30～17:30

メインイベント

- 基調講演
- アトラクション
- 古事記朗唱
- 宮崎県神楽公演
- 市町村プレゼンテーション

【編集後記】 長谷寺のボタンまつり、矢田寺のアジサイ園、各地のチューリップフェアなど、「緊急事態宣言」を受け「三密」防止のため各種イベント行事の中止や延期が相次いでいます。花々を楽しむ機会は、自粛生活で訪れることは叶いませんでした。食のセミナーも「宣言」解除を待って、予定より40日遅れでの開催となりましたが、あと2回の開催予定なので、コロナ禍の終息を願うばかりです。

先日、馬見丘陵公園に菖蒲を撮影に行きましたが、表示に「花菖蒲・アヤメ・カキツバタの違いがわかりますか」と書かれていました。皆様はご存知ですか。敢えて答えは書かずにおきます。健康にご留意ください。（編集子 K）

うるわし通信発行人
高瀬 安男
TEL:090-1678-9157